



妻木新平の小説「名医録」を出版 町出身小説家の作品をよんでほしい

7月16日、平尾出身の小説家である妻木新平さんの作品「名医録」を現代表記版として大堂定憲さん（浜瀬・写真）、桐野徹朗さん（蔵之元）、山崎友喜さん（母良木）の3人が出版しました。同作品は、第19回芥川賞の候補になった作品です。本は、町内の小中学校や図書館などに寄贈予定。残りは町歴史民俗資料館で購入可能で、内容は上の二次元コードから閲覧できます。大堂さんは「30年前から計画していた妻木先生の現代表記版を出版できてとても嬉しく思う。先生の作品をたくさんの方に読んでほしい」と話しました。



長島町戦没者追悼式 平和な日々感謝して

7月22日、令和8年度長島町戦没者追悼式が町文化ホールで執り行われました。式には、遺族のほか、町関係者など約30人が参列し、戦没者に対して黙とうがさげられました。

追悼の言葉では、遺族会会長の松山紀久男さん（馬込）が「終戦から81年が経過し、戦争によってもたらされた悲しみと苦しみ、私たちが現在享受している平和な日々の喜びの陰には、尊い殉国の犠牲が秘められていることを忘れてはいけない」と述べ、参列者は、献花台に花を手向けました。



長崎鼻灯台公園周辺でたくさんのヒマワリ きれいな景色はみんなの協力で

7月20日ごろから、長崎鼻灯台公園（唐隈）周辺の畑にたくさんのヒマワリが咲きはじめました。

これは、長島八景の一つに数えられる同公園周辺の美しさを、地域住民には誇りに、訪れた人には楽しんでもらえるようにと例年、城川内と唐隈の周辺農家が協力して、種まきを行い、種子は株式会社長島物産館（梶修代表取締役）が提供しています。

咲いたヒマワリは、訪れた人たちを魅了し、今年は、10畝の畑に100万本分を作付け。長期間楽しんでもらえるよう、畑ごとに時期をずらして種まきを行い、8月中旬までを目途に咲いている状態を維持できる予定です。

耕作者であり、唐隈自治公民館長の柏木義郎さんは「公園周辺の農家や皆さんの協力のおかげでここまで大規模なヒマワリ畑を例年実施できることに感謝。昨年、入口から灯台までの道路を整備してもらい、今までよりアクセスしやすい観光地となっているので多くの皆さんに来てもらって、ヒマワリを楽しんでほしい。九州一のヒマワリ畑を目指して、皆さんの力をいただきながら、これからもがんばっていききたい」と感謝の気持ちを話しました。